

2016年12月

## ゆとり世代の強みと弱み ～若者の雇用問題～

情報学部 情報学科 新井ゼミ  
B3P21098 出井里奈

### 【本卒業論文概要】

ゆとり世代…ゆとり教育を受けた世代のこと。範囲や定義は明確ではないが1987年から2003年生まれの12歳から29歳である。

雇用問題…新卒や中途に限らず求人率・失業率が著しく高い状態であり、非正規労働者や失業手当を受けられない人も増えている。

非認知能力…IQやテストで測れる認知能力に対してIQ、知能に関係なく意欲・協調性・粘り強さ・忍耐力・計画性などの個人の特性。

私が、今回の課題に興味を持ち、研究を行う理由は、新井先生のゼミの授業で学ぼうちに派遣社員や生活保護を受ける若者が多い中で、日本人の雇用率をもっと増やしたいと思ったからだ。雇用が増えれば給料が安定し、ある程度の見通しができる。そうなれば日本人の結婚・出産率も増え、人口も増え、少子高齢化も止まり、日本の未来は潤うのではないかと考えた。しかし、今後20年で47パーセントの職業が機械に代わり、また外人が多く増え、日本人が減っていく。日本の歴史を良くも悪くも変えていくのは私たち若者である。その中でも注目したのがゆとり世代だ。今後をこれから背負っていく若者の未来が明るくなければ、日本の発展はないといっても過言ではないゆとり世代は、悪い印象が多く「ゆとり世代だから」という理由ではめられたことはない。昔は「ゆとりある教育」は良い教育という概念があったのにも関わらず、なぜこのようになってしまったのかを考え、論じていきたい。

さらに加えてゆとり世代の新卒の就職活動に注目し、学力がお世辞にも高いといえない学生たちが、なぜ一定数の割合で有名企業に内定をもらっているのか、その秘密は学力ではなくその人自身の能力が優れているのではないかと考え、新井ゼミで研究した非認知能力を交えて論じる。

最後に、数ある中から選ばれたにもかかわらず内定者が社会に出てから「使えないゆとり社会人」というレッテルを貼られ、耐えられず辞めていってしまうのかを今後の課題と提示した。